アルバロ・ドメック の追悼

先頃、10月6日、闘牛の まってあり、ルーであられた。 は、カーであったアルーであったアルーでがスペインのでものでである。 は、カーでがスペインのでもまった。 が出まれた。 が出まれた。 が出まれた。 がは、まれた。 がれた。 がれた。

2005/10/29

10月6日、スペインでも有数の闘牛の牧場主であったアルバロ・ドメックが亡くなったという知らせを受けて、闘牛界は大きな悲しみに包まれた。生前の姿を知る人々は、その親しみやすさ、寛大さ、神への深い信仰が際立っていたと言う。

1970年代にオプス・デイ創立者 に個人的に知り合い、それ以後の人 生に大きな影響を受けることにな る。どのようにオプス・デイを知っ たのか、聖ホセマリアとの友情はど のようなものだったのか、十数年前 に行われたアルバロ・ドメックとの インタビューをここに紹介する。

1988年6月26日付「ABC紙」(マドリッド)に掲載されたマヌエル・サンチェス・ウルタードによるインタビュー。後にラファエル・セラーノ著「人々の証言」(リアルプ社刊)に収録された。

Q. アルバロさん。いつ、エスクリバー・デ・バラゲル師を知られましたか?

A. 私は日付に関して物覚えが悪くて ね…初めて創立者に会ったのがいつ だったか、正確に覚えていません。 おそらく、1967年の秋ごろパンプ ローナだったと思います。ナバラ大 学後援会の人々との集まりがあっ て、セレモニーが終わったとき、挨 拶をしようとエスクリバー師に歩み 寄ると、驚いたことにいきなり私の 名前を呼んで、私の額に十字架のし るしをして、一言「分かってるよ」 と言ってくれました。私は引っ込み 思案なので、私が知らない間にどう やって自分のことを知っているのだ ろうと、ただびっくりしました。

また、私に愛情を注いでくださり、 細やかな心遣いが心に残りました。 そのお蔭で、仕事を続けるようにど れほど励まされたか分かりません。 いつも、「神への愛で果たしなさいよ!」と付け加えておられました。

同じ頃、パンプローナのお祭りでと、 されていた闘牛を見てもらおして一緒に出かけました。 とこの場に居かけました。人を のよされていました。終信じがれた はなったなったなでするいいました。 を自慢していたルイスを を自慢しが私だけにそっとは、 を自せた私だけにこれからはない ない神父の味方になろうかな。」

聖ホセマリアが1972年にヘレス・デ・フロンテーラへ来られたときのことをよく覚えています。私と妻を正式に昼食に招いてくださいました。それは、この街の郊外にある黙想と研修の家「ポッソアルベーロ」建設のために僅かばかり手伝った私たち夫婦に対する感謝のしるしでした。この施設は、数千人のアンダア

ルシーアの人々が利用しています。 オプス・デイ創立者はとても感謝してくださり、千里の道も一歩から、 そのうちきっと達成できると励ましてくださいました。

このように励ましてくれる人と出会 うのは素晴らしいですね!単純率直 で、気づかれないように助け、励ま し続け、本人が気づかないうちに仕 事が完成に近づき、苦労もなく、そ れどころか喜びさえ生まれてくるの です。オプス・デイと触れ合った年 月、その中で一番心に残っているの は、神への愛で日常の仕事を果たす ように励まされたことです。私が知 る限り、創立者はこの教えをあらゆ る人々、信仰のある人ない人、社会 のすべての分野の人々に広めまし た。

私は他の闘牛士や詩人、作家たちと 一緒に、霊的な指導を受ける研修会 に何度も参加しました。二、三日の 間、神と神に関する事柄についての み考えるという、素晴らしい経験が 出来ました。もう亡くなりました が、ドミンゴ・オルテガ氏から「次 も、このような機会があれば忘れず に連絡してくださいよ」と、言われ ました。ドミンゴさんも、他の人々 も、みんな霊的なことに専念するこ とが気に入っていました。これは、 エスクリバー・デ・バラゲル師がと ても強調していた、日常の平凡な事 柄に高貴な意味を与えなさいという 教えの表れの一つです。私も彼から 直接に習いました。そして、あなた と顔を会わせる度に同じことを言っ ているのですよ。また、彼からして もらった抱擁をあなたにもしている のですよ。

Q.エスクリバー師と出会ったときの 第一印象はどうでしたか?

A. 信頼と喜びですね。自己を捧げる という生き方を教えながら、それを 強制することなく、丁寧に、しかし 効果的に励まし、すべてを神への愛 ゆえに果たし、日常生活に霊的な重 要性を持たせるようにするのです。 つまりですね、仕事を聖化できると いうことは、素晴らしいでしょう。 仕事に励む人にとって、このメッ セージは、決定的かつ根本的な満足 感を生み出すでしょう。

たとえば、師は私が闘牛を仕事にし ていることを知っておられました が、闘牛のファンだったかどうか知 りません。ただ、私にはファンに見 えました。そして、「この仕事を続 けなさい。しかも、できるだけ上手 にやりなさい | と言ってくださいま した。自然の傾向を取り除くことせ ず、それに意味を与えるように助け てくれました。心を込めて果たし、 していることに身を捧げるように励 ましてくれました。これは、とても 価値があることです。取り組んでい

ることが遣り甲斐のあることだと分かれば、大きな満足になります。

Q. 闘牛の牧場主の仕事をどうやって 聖化しますか?

A. 何よりも、良い闘牛を育てること ですね。牧場主が正しく評価される ことはあまりありません。現代の ファンは要求が高く、その牛を育て るためにたくさんの仕事がありま す。しかも、お客様には見えない牛 の性格を見抜いて、選別しなければ なりません。牛を育てる仕事を始め たときは時間をかけず適当にやって いたのですが、今では何代にもわ たって血統を調べ、その特徴を熟知 し、交配し、穏やかな性格と荒々し い性格を兼ね備えた牛を育てるよう にしています。

闘牛を見れば、それが育て方を研究 している牧場主のものかどうか、す ぐ分かります。身体的な特徴だけで なく、闘牛そのものに表われるので す。このような努力が必要ですね。 闘牛が好きだから努力するのはもち ろんですが、神への愛のために頑張 ります。

Q. エスクリバー師の性格の特徴は何でしょうか?

A. エスクリバー師からは、聖性があ ふれ出ていました。聖性の正確な定 義が何か知りません。でも、その態 度から、神の愛を広め、仕事を愛 し、人々を幸せにしたいという、途 切れることがない望みが、外に映し 出されていました。また、エスクリ バー師には限界ということがありま せんでした。教会の教えを社会のよ り広い分野に広め、たくさんの人に 出会うために、次々と新しいことを 思いつきました。そして、素晴らし い実りをもたらしました。この短い 期間に、これだけ多くの様々なタイ プの人々にオプス・デイが根付いた ことは、奇跡として世間の注目を集

めました。私は世界中を旅しますから、この目でそれを確かめ、そこから大きな影響を受けました。

Q. あなたがなさっていた闘牛について話す前に、人々が「仕事の聖化」ということを分かるでしょうか?

A. 分かると思いますよ。そうして初めて仕事の本当の意味が分かるからです。人間は生まれつき神の方に向かうようになっています。ただ、「どうやって」ということが分からないのです。エスクリバー師が偉大なのは、これを人々に教え、道を拓いたことです。

以前は、神に向かうとは教会へ行く ことだと考えていました。しかし、 教会の他に劇場や闘牛場にも神がお られるということを知りませんでし た。あらゆる場所、あらゆる正当な 状況におられることを知りませんで した。神が自分と一緒におられるこ と、だから自分の生活、趣味や友情 などを聖なるものに出来ることを知 らなかったのです。

この真実を、一歩を踏み出す勇気がないために理解できない人々がいましたが、圧倒的多数に受け入れられたことで証明されと言えるでしょう。一歩踏み出しなさい。そしたら発見するでしょう。

Q. 聖人と一緒に暮らすにはもう一人の聖人が必要だと言われますが、エスクリバー師と共に過ごすことは易しかったのですか?

た。神の愛で動くことは大きな価値 があります。神はいつも寛大に応え てくださいますから、どんなに小さ なことでも、神はそれを高く評価し てくださいます。ご存じのとおり、 創立者の助言は愛情に満ち、人間は 愛するために生まれてきた、という ことが良く分かりました。

Q. アルバロさん、オプス・デイはあ なたに何を与えてくれましたか?

A. すべてにおいて助けられました。 支援者がいるなら、自分の商戦とさいるなら、聖性の世の世のでしょう。聖性の世のでしたが、ないさいと言いないはなります。 たれなります。とはなったと言びではあるこのはることが、オプス・デ、新にないを伝える。自分の人生を関さいた。 たいた、喜びと親しみやすく上品な能 度、自分の模範によって伝えるので す。

すべてにおいて助けられたと言いましたが、それは霊的なことで、それは霊的なことが、と話、社会生活、家族生活、家族生活、家族生活、家族生活、ないません。さらに対して、大力のようにはないでもからにします。を動かし、高性で各状況をもっと神をもはあるでも、それはまた別のことでも、それはまた別のです。

Q. これらのことは現代社会の状況と 正反対ですね。

A. 確かに、現代社会は分裂や対立していますが、その逆もあります。現代の若者たちは誠実でありたい、連帯したいと望んでいます。オプス・デイ創立者は、すでにそのことを次のように述べていました。社会は悪いし、人生も簡単ではないが、神か

ら離れたと思っていた人々が、実は そうではなく、霊的な感覚を伸ばし ていたと気づくでしょう。

これらは、水が染みこむように少しずつ社会に溶け込みます。だから私は悲観的ではありません。社会が悪くなると言う考えに賛同しません。 社会は良くなっています。まるで沈黙の改革です。結果は時代と共にいずれ明らかになるでしょう。

Q. ところで、あなたはオプス・デイに何を与えたのですか?

らしました。もう何も出来ないと思った後で、神への愛でささやかな事をすれば、それが偉大なことに変わると気付くのです。そして、出来ることで協力しようとなります。それですぐに叶えられました。

Q. エスクリバー師の列福調査の手続きが1981年から始まりましたが、あなたは取次ぎを願い、彼に祈りますか?

A. 私は、列福請願人が印刷した私的信心カードを使って祈っています。 今、とても大切なことを頼んで思います。 まず、近いうちに叶えられると思います。 霊的なことや人間的な些細な願い事を頼める人が天にいてくれると思うと心強いです。自分の仕事のとは頼みません。内的なことが多いですね。

頂いた手紙をしばしば読み返すことで、彼を思い出す機会にしています。私は小さいことにこだわる方で

ね、数年前から友人に手紙を送るよ うになり、彼にも出しましたが、思 わぬ素早い返事をもらっては、びっ くりしておりました。翌年、手紙を 書くことに疑問を感じましてね…返 事を強要しているのではないかと ね。でも、書かないと忘れたと思わ れそうだし…それからも手紙が届き まして、いつも助言が書いてありま した。亡くなってからは、後継者の アルバロ・デル・ポルティーリョ師 に手紙を書きました。お会いしたと きにはいつも私に冗談を言ってから かい、また、手紙には短い返事をく ださいました。それがとても嬉し かったです。時間を無駄遣いさせて いると感じると同時に、こまやかな 心遣いの模範だとも思いました。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/

arubarodometsukunozhui-dao/ (2025/12/17)